

平成28年度 新地方公会計制度による統一モデルによる財務書類（全体会計概要版）

五條市では、「新地方公会計制度」の統一モデルに基づき、民間企業会計の考え方を導入し、一般会計のほか特別会計や企業会計などを含めた五條市の資産と負債のすべての状況（平成28年度末）をまとめた4つの財務書類を作成しましたのでお知らせします。

※全体会計の範囲

一般会計、墓地事業特別会計、大塔診療所特別会計、国民健康保険特別会計
簡易水道特別会計、下水道事業特別会計、介護保険特別会計
後期高齢者医療特別会計、水道事業会計、農業集落排水事業特別会計



【全体会計】貸借対照表（BS）

市にどれだけの財産と借金があるか、その内訳はどのようなものかを表しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）	
1. 事業用資産・物品等 （市役所・学校などの土地、建物など）	392.4 億円
2. インフラ資産 （道路・上下水道・橋などの土地、設備など）	904.4 億円
3. 金融資産 （預金、未収金、基金など）	89.7 億円
資産合計	1386.5 億円

負債の部（将来世代が負担する金額）	
1. 地方債	364.2 億円
2. 退職手当引当金	28.9 億円
3. その他固定負債	60.2 億円
4. その他流動負債	6.3 億円
負債合計	459.6 億円
純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
純資産合計	926.9 億円
負債及び純資産合計	1386.5 億円

【全体会計】資金収支計算書（CF）

現金の流れを示すものであり、その収支を性質に応じて、区分して表示することで、市がどのような活動に資金を使ったかを表しています。

平成28年度期首残高	10.7 億円
1. 業務活動収支 （行政サービス実施による収支）	13.5 億円
2. 投資活動収支 （固定資産の購入・売却による収支）	▲14.3 億円
3. 財務活動収支 （借入・返済による収支）	3.5 億円
当期収支額	2.7 億円
平成28年度期末残高	13.4 億円

【全体会計】純資産変動計算書（NW）

貸借対照表に計上されている純資産が、1年間どのように増減したかを表しています。

純資産の増減は、将来サービスに対する蓄えの増減を意味します。

平成28年度期首残高	941.8 億円
1. 純資産の増加 （市税収入、国・県などからの補助金など）	239.8 億円
2. 純資産の減少 （資産の減価償却、純行政コスト）	▲266.4 億円
3. その他 （水道事業会計制度改正に伴う資産変動、その他調整差額）	11.7 億円
当期変動額	▲14.9 億円
平成28年度期末残高	926.9 億円

【全体会計】行政コスト計算書（PL）

現役世代にどれだけの行政サービスを提供したのかを表しています。

民間企業における『損益計算書』にあたります。

経常費用(A)	………	280.9 億円
1. 人にかかるコスト (職員給料など)	………	39.2 億円
2. 物にかかるコスト (消耗品、減価償却など)	………	81.5 億円
3. 経費・業務関連コスト (業務委託、利息の支払いなど)	………	6.5 億円
4. 補助・保障給付 (介護、国保給付費、市民や団体への補助金など)	………	153.7 億円
経常収益(B)	………	17.9 億円
1. 使用料・手数料 (行政サービスの利用者が負担する手数料など)	………	12 億円
2. その他収益 (貸付金に対する利息、賃貸料、その他雑入など)	………	5.9 億円
純経常行政コスト(C)=(A)-(B)	………	263 億円
臨時損失(D)	………	3.4 億円
臨時利益(E)	………	0 億円
純行政コスト(C)+(D)-(E)	………	266.4 億円

平成28年度決算分に基づく 市民1人あたりの換算額

平成29年3月末の住民人口 31,709人

○市民1人あたりの資産	437.3 万円
○市民1人あたりの負債	145 万円
○市民1人あたりの純資産	292.3 万円
○市民1人あたりに行政サービスを提供するために要する費用	82.9 万円



平成27年度と平成28年度の比較

貸借対照表	平成27年度(A)	平成28年度(B)	前年比(B)-(A)
資産合計	1410.8 億円	1386.5 億円	▲24.3 億円
負債合計	469 億円	459.6 億円	▲9.4 億円
純資産合計	941.8 億円	926.9 億円	▲14.9 億円
行政コスト計算書	平成27年度(A)	平成28年度(B)	前年比(B)-(A)
経常費用	276.2 億円	280.9 億円	4.7 億円
経常収益	15.5 億円	17.9 億円	2.4 億円
臨時損益	7.9 億円	3.4 億円	▲4.5 億円
純行政コスト	268.6 億円	266.4 億円	▲2.2 億円
純資産変動計算書	平成27年度(A)	平成28年度(B)	前年比(B)-(A)
純資産増加	246.2 億円	251.5 億円	5.3 億円
純資産減少	268.6 億円	266.4 億円	▲2.2 億円
当期変動額	▲22.4 億円	▲14.9 億円	7.5 億円
資金収支計算書	平成27年度(A)	平成28年度(B)	前年比(B)-(A)
業務活動収支	12.8 億円	13.5 億円	2.7 億円
投資活動収支	▲19.9 億円	▲14.3 億円	3.6 億円
財務活動収支	4.4 億円	3.5 億円	▲0.9 億円
当期収支額	▲2.7 億円	2.7 億円	0 億円

貸借対照表から分かること

市の所有する建物や道路、下水道などの経年劣化に伴う減価償却により、資産が減少しました。

行政コスト計算書から分かること

昨年度と比べ、保険給付や各種補助など市民の皆さんに提供した経常的な行政サービスの総額が増加しました。

純資産変動計算書から分かること

行政コストのうち、受益者負担で賄えなかったマイナスは、税収や国・県からの補助金などにより補填されたため、純資産はほとんど変動ありませんでした。

資金収支計算書から分かること

業務活動収支、投資活動収支（ただし支払利息支出を除く）を合計したプライマリバランスは、黒字を維持しています。一方で財務活動収支については、借入金償還額を上回り、地方債が増加しました。

